



長崎っ子の心を見つめる教育週間「土曜授業」終了! 保護者・地域の皆様 ご来校ありがとうございました。

長崎っ子の心を見つめる教育週間



土曜授業開催

6月24日(土)「土曜授業」を開催しましたところ、保護者の皆様210名、地域の皆様17名とたくさんの方々にご来校いただきましたことを、まずは深く感謝しています。

本校では、平成16年から「長崎っ子の心を見つめる教育週間」を開始し、教育週間中の教育活動を公開しています。そして、学校と保護者や地域の皆様が連携し、「地域の子どもは地域で育む」という気運を高める中で、生徒一人一人にとってより良い教育環境の構築に努めて参りました。

また、令和5年度、アフターコロナの新たな教育活動を創造していく中で、本校で初めての試みである「土曜授業」を本日開催し、保護者の皆様や地域の皆様に本校生徒の学びをご参観いただくと共に、講演会、学年・学級PTA、郡っ子サポートネットワーク会議等を通して、保護者の皆様や地域の皆様と意見交換を深め、さらに充実した教育環境の構築することができればと考えた次第です。

郡中では、今後も、長崎県の特徴ある取組である“いのちを輝かせて生きる心豊かな長崎っ子の育成”を推進する中で、生徒達を取り巻く社会環境や世界情勢の様々な変化に対応できる「生きる力」を、生徒の心に寄り添いながら育てていきます。

保護者の皆様におかれましては、どうぞこれからも本校の教育活動に対しまして、ご理解、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

「土曜授業」命に関する特別の教科「道徳」の授業公開より 生徒達の授業後の感想をご一読ください。

学 年	教材名	主題名	ねらい
第1学年	ばあば	ともに生きる	曾祖母「ばあば」を家に迎えた「僕」たち家族。共に生き、天寿を全うした「ばあば」との生活を通して、生命は連続とつながっており、関わり合い支え合ってきたことを深く自覚するとともに、与えられた生命を精一杯生きようとする態度を養う。
第2学年	命を見つめて ～猿渡瞳さんの 646日～	懸命に生きる	右大腿骨肉腫、肺にも転移していると伝えられた猿渡瞳さん。彼女の646日の闘病生活を通して、限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする実践意欲を育てる。
第3学年	臓器ドナー	自他の生命の尊さ	子供の臓器提供を行った家族と母親の臓器提供を行った家族。この2つの家族の動画と本資料を通して、臓器提供という現代的な課題について考える中で、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重しようとする判断力を育てる。

人は支え、助け合い、感謝しながら生きることを学びました。これからも助けられた分だけ相手に恩返しをしようと思いました。

1年3組 藤永苺々

自分も助け、人に助けられ、人は支え合いながら生きていくことを知った。今を大事に生きようと思った。

1年3組 岩元紫音

泣きそうになった。同じ人間だけど意志が強い、人間のあるべき姿、鑑。「今」が大切とよく決まり文句みたいに言ったりするけど、本当のことだと思った。

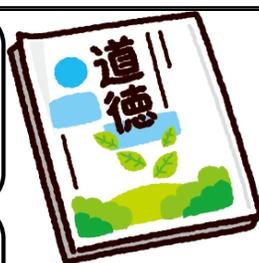
2年3組 右近晴紀

臓器移植は自分は嫌だ。しかし、自分はその時もう死んでいる。また、臓器提供を待っている患者の子供は確かに生きているが、自分よりも小さな子があんなに苦しみながら生きている。これは自分では決められないと思った。

3年5組 徳山楓馬

死によってつながれる命というのはとても不思議なものだと思いました。また、臓器を提供することばかり考えているけど、自分がいつ臓器を待つ方になるのかわからないので、しっかり考えていかなきゃいけないと思いました。

3年2組 田口香哩奈



全てクラスの「道徳」の授業で「命」について真剣に考えてみました…。





「土曜授業」情報モラル集会より

一人一人が自分のこととしてしっかり考えていきましょう!



「情報モラル集会」においては、本校の現PTA会長であり、長崎県メディア安全指導員の資格もお持ちである内海博文様を講師としてお招きし、情報社会の進展によりスマホ等の情報端末機器の所持率が急速に進む中、本校でも起こっているLINEやインスタグラム等のSNSによる誹謗中傷や画像流出問題、また、安易な自分自身に関する投稿やなりすましメールによって自分の身に及ぶ危険性等、今の中学生を取り巻く実態をリアルに本校生徒、そして、ご参会の皆様にもわかりやすく紹介していただく中で、情報社会を生き抜く大切な倫理観や社会的責任について学ばせていただきました。

この講演を機に、これからの情報社会を生き抜いていくための適切な情報モラルや自分自身を守るためのスキルをさらに高めてほしいと思っています。

長崎県メディア安全指導員
内海博文 様

子どもがSNSを使う場合に気を付けること

- 会ったことがない相手に個人情報を教えない
- プライベートな画像は送信しない
- ネットでしか知らない相手に会いに行かない
- 知らない相手とDMでの個人的なやりとりはしない
- 友達に裸の写真を送信させる／所持／転送＝違法
- プライベートな情報は極力載せない(プロフも)
- 非公開設定にして特定の人とだけ共有する
- 写真や動画を撮ってすぐ投稿しない
地域・学校・個人が特定される情報が映っていないか確認してから、投稿する

「令和5年度 長崎っ子の心を見つめる教育週間」について

令和5年6月28日校長講話より (一部抜粋して掲載)

みなさん一人一人のかけがえのない「命」について、しっかりと向き合い、考えを深めてもらうために「令和5年度 長崎っ子の心を見つめる教育週間」が6月24日(土)～7月1日(土)までの日程で始まりました。

そこで、まずはじめに、みなさんには、どうしてこの「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まり、今もなお受け継がれ、引き続き開催されているのかについて話をさせていただきたいと思います。

本当に重く、辛い事件でしたが、しっかりと受け止めてもらいたいと思います。

実は長崎県では、みなさんと同世代の少年・少女によるとても残念で、悲しい事件がこれまで3つ起こっています。

1つ目は、2003年7月1日、長崎市内の大型電器店で、中学1年の男子生徒が当時4歳の児童を連れ去り殺害した事件。

2つ目は、それから1年後の2004年6月1日、佐世保市内のある小学校で起きた6年生の女子児童による同級生女子児童殺害事件。

そして、3つ目は、2014年7月26日に佐世保市で起きた高校1年生の女子生徒による佐世保女子高生殺害事件です。

この3つの事件は、全国に衝撃的なニュースとして伝わると共に、特にみなさんと同世代の少年・少女が起こした事件だっただけに、長崎県民は、そして県内の全ての学校の先生方、児童、生徒一人一人が、本当に悩み、必死に考えました。

そして、二度と同じような事件により少年・少女の尊い命が傷つけられ、奪われることがあってはならないという思い、

また、二度とこのような事件を長崎の少年・少女たちに起こさせてはならないという決意の中で、これまで守られ、継続して開催されてきたのが、この「長崎っ子の心を見つめる教育週間」なのです。

だからこそ、この「長崎っ子の心を見つめる教育週間」では、みなさん一人一人に、「今ここにしかない私の命、あなたの命」について、しっかりと向き合い、考えを深めてもらいたいと思っています。またそのことが、「今ここにしかない私の命、あなたの命」の輝きにつながることを願っています…。 校長より

長崎っ子の心を見つめる教育週間 令和5年6月24日～7月1日

命はなぜ目に見えないか？
それは命とは、
君たちが持っている
時間だからなんだよ。
死んでしまったら、
自分で使える
時間もなくなってしまう。
どうか一度しかない自分の時間
命をどうに使うか
しっかり考えながら
生きていこう。

長崎県立佐世保高等学校の生徒たちによる啓発活動の様子
千一△郡 思いを力に！

令和5年度大村市中学校総合体育大会・陸上競技終了!

県大会出場者を紹介します! これからも応援よろしくお願いします。

【男子】

- 共通男子110mH 第1位 3年 谷川偉琉
- 03年男子100m 第3位 3年 谷川偉琉
- 1年1500m 第1位 1年 角 光稀
- 低学年100mH 第2位 2年 副嶋佑成

【女子】

- 共通女子1500m 第1位 2年 中村心美
- 共通女子100mH 第3位 3年 山崎玲美
- 03年女子100m 第3位 3年 山崎玲美
- 03年女子800m 第1位 3年 船越理央
- 02年女子800m 第1位 2年 中村心美
- 01年100m 第1位 1年 山口璃子
- 01年4×100mR 第1位 1年 琴岡芽生・山口璃子・渡邊伊織・船越真央・種本愛依来・内海早智

